

吹田市水道経営審議会  
第10次第5回審議会資料

# 水道料金体系の設定について

参考資料  
(社)日本水道協会 水道料金算定要領

平成27年(2015年)2月26日  
吹田市水道部経営室

- 
- 1 料金体系設定の基本原則**
  - 2 基本料金と従量料金**
  - 3 用途別と口径別**
  - 4 逦増型料金制度**
  - 5 諸課題**

# 1 料金体系設定の基本原則

## ●基本的に個別原価主義

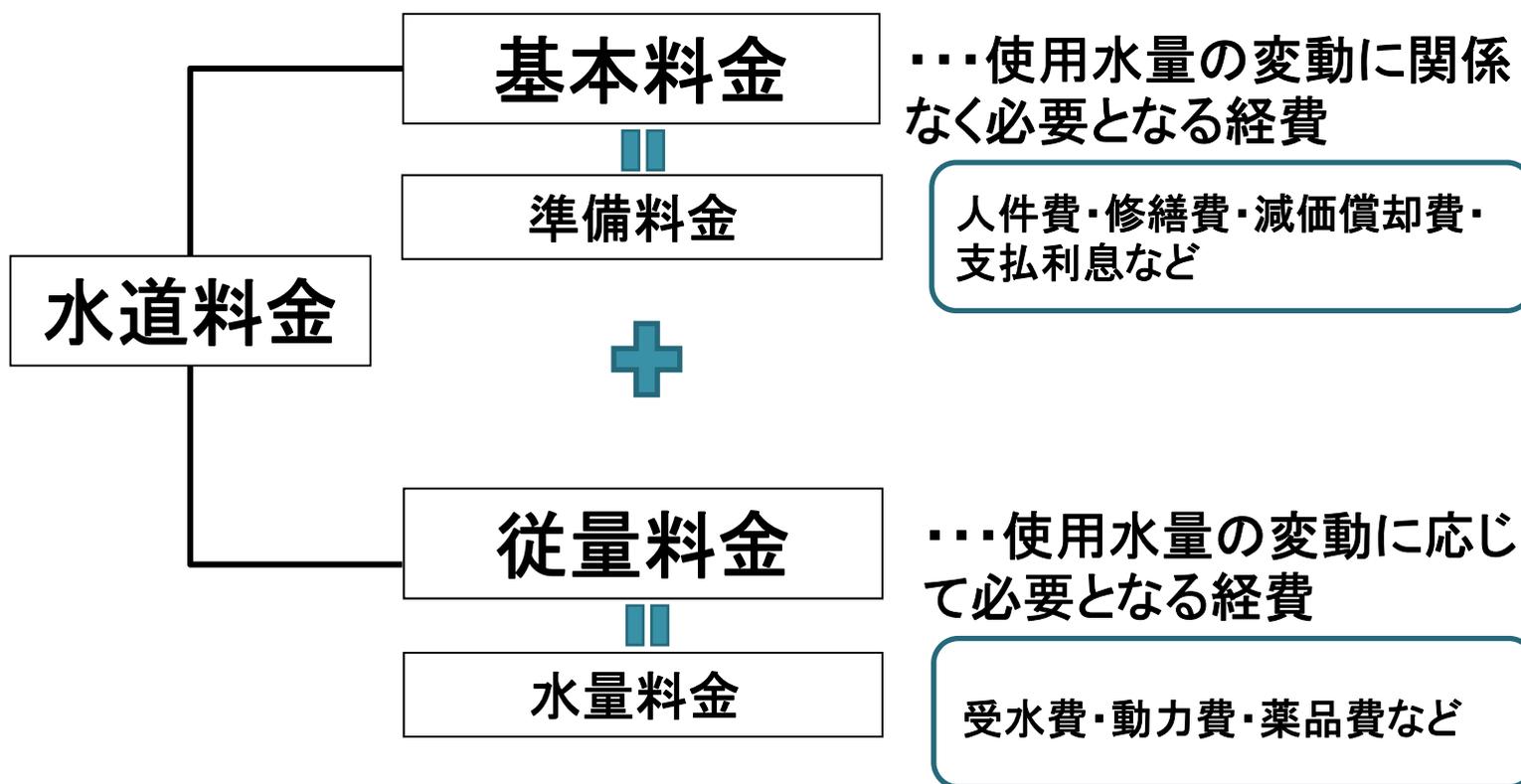
各個の料金は、個々のサービスの供給のため  
の原価をもとに決定する。

## ●補完的に生活用水への配慮

生活用水を低廉かつ安定的に供給するという  
水道事業本来の目的から実施

## 2 基本料金と従量料金

### ◆水道料金の構成（二部料金制）

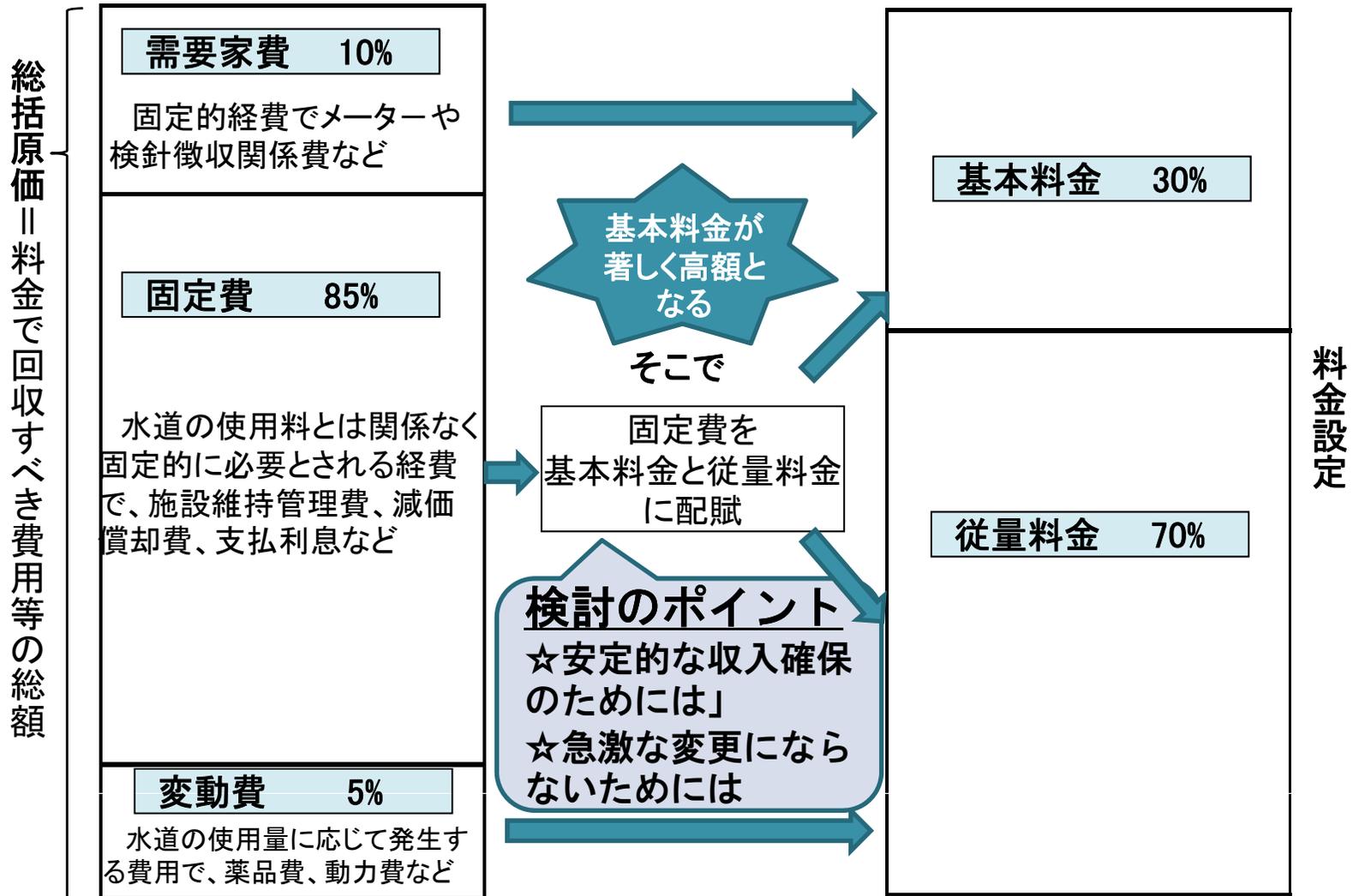


# ◆総括原価と料金設定イメージ

【%はイメージとしての一例】

水道事業の特性 = 典型的な装置産業  
= 固定費が大きい

料金制度 = 二部料金制



# 3 用途別と口径別

## ●料金体系は大別すると用途別と口径別

用途別...古くから全国で採用

口径別...近年は口径別へシフト

区分別事業体の比率

区分	昭和40年	平成26年
用途別	99.0%	34.8%
口径別	1.0%	54.2%
その他	—	11.0%

## ●水道料金算定要領＝口径別料金体系を基本 (昭和42年策定)

### 検討のポイント

- ☆基本原則（個別原価主義・生活用水への配慮）
- ☆客観的な負担の公平性

# 4 逦増型料金制度

## 逦増型料金体系

- ・ ・ ・ 使用量の増加に伴い従量料金単価が高くなる料金体系

制度導入当時とは大きく環境が変化＝使用水量が減少



使用水量の減少率以上に料金収入が減少し経営を圧迫  
供給単価（販売単価）が給水原価（製造単価）を下ま  
わる逆ザヤの状態が続いている

### 検討のポイント

☆逦増度を緩和し、料金体系を全体としてどこまでフラット化するのか。

☆個別原価主義の原則に基づき、少量使用者にも本来のコストに見合った負担をどこまで求めるのか。

# 5 諸課題

## 課題1 地下水利用専用水道

地下水利用の専用水道の導入による  
水道使用量の減少が財政に影響

### 検討のポイント

☆実行可能な効果的な対策はあるのか

## 課題2 加入金と開発負担金

建設拡張の時代から維持管理、更新の  
時代へと変化

### 検討のポイント

☆貴重な財源のひとつとして確保するには

☆更新の時代に見合った制度とは